

製品名: CHD8 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08750**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	283kDa

抗原情報

遺伝子名	CHD8
別名	HELSNF1 KIAA1564
遺伝子 ID	57680.0
SwissProt ID	Q9HCK8
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

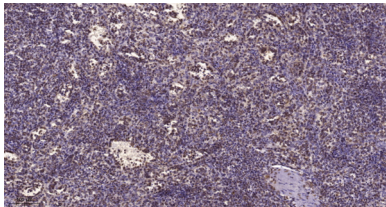
この遺伝子は、クロマチン構造をリモデリングすることで転写抑制因子として機能する DNA ヘリカーゼをコードしています。β-カテニンに結合し、脊椎動物の初期発生と形態形成に重要な役割を果たす Wnt シグナル伝達経路を負に制御します。この遺伝子を欠損し

たマウスは早期胚死を示します。この遺伝子に対して、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2010年5月]、機能:クロマチンリモデリング因子として機能し、転写を制御する DNA ヘリカーゼ。クロマチン構造をリモデリングし、ヒストン H1 を標的遺伝子にリクルートすることで、転写抑制因子として機能します。ヒストン H1 をリクルートして p53/TP53 の転写活性化活性を阻害することで、p53/TP53 を介したアポトーシスを抑制します。β-カテニン (CTNNB1) 活性を調節することで、Wnt シグナル伝達経路の負の調節因子として機能します。いくつかの CTNNB1 応答性遺伝子のプロモーター領域に特異的にリクルートされることにより、CTNNB1 標的遺伝子の発現を抑制します。CTCF との相互作用を介して、エンハンサーブロッキングとクロマチン境界でのエピジェネティックリモデリングの両方に関与します。LIF 誘導性 STAT3 転写活性を抑制することにより、STAT3 活性の抑制因子として機能します。また、効率的な U6 RNA ポリメラーゼ III 転写に関与することにより、ZNF143 との相互作用を介して転写活性化因子としても機能します。、その他: この遺伝子は、一部の小児の発達遅延、認知障害、および同様の軽度異常と関連するゲノムの 14q11.2 領域に位置しており、表現型の候補として適している可能性があります。、PTM: SUMO 化されています。、類似性: SNF2/RAD54 ヘリカーゼファミリーに属します。CHD8 サブファミリー。、類似性: ヘリカーゼ ATP 結合ドメインを 1 つ含む。、類似性: ヘリカーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: クロモドメインを 2 つ含む。、細胞内局在: CTNNB1 応答性遺伝子のプロモーター領域に局在する。また、既知の CTCF 標的部位にも存在する。、サブユニット: p53/TP53、ヒストン H1、CTNNB1、CTCF、および PIAS3 と相互作用する。WDR5 を含む 900 kDa の多タンパク質複合体の構成要素。、

研究分野

WNT;WNT-T 細胞

画像データ



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。